

えんちょう日記 第11回

「ビオトープ②」 ～ヤゴの誕生・メダカのお引越し～

令和7年 12月 3日

ビオトープでは、ヤゴ（とんぼの幼虫）が誕生するという嬉しい出来事がありました。10月頃までとんぼ（アキアカネ）が飛び回る様子があったので、このビオトープを産卵場所に選んでくれたのだと思います。子どもたちへ報告すると、“とんぼ”は空を飛んでいるのに、どうして赤ちゃんは水の中にいるのかな？と心の中で不思議な気持ちが芽生え興味をもつようになりました。

その後、子どもたちは「ヤゴ」を見たくて、目を凝らしながら水面を探していました。ヤゴの姿をみつけると嬉しそうに先生や友だちに伝え合う様子が見られました。自分の思いを聞いてもらったり、友だちと楽しさを共感できたりする体験は、自己肯定感を育むうえでは大切なことになります。

これからも子どもたちの声に耳を傾け、豊かな体験ができる環境づくりを工夫していきたいと思います。



「ここにいるよ～」
「何を食べているのかな？」



大きさの違う3匹を見つけることができました。
ビオトープには何匹いるのでしょうか。



「これがヤゴだよ」



★ヤゴはメダカを捕食してしまいます。そこで、ビオトープにいるメダカは金魚鉢に引っ越ししてもらうことになりました。金魚鉢は、職員室のガラス窓の近くに置き子どもたちが観察できるようにしました。



ヤゴの顔をよく観察すると“とんぼ”が想像できるような顔のパーツに近づいていました。
ヤゴは食べものをとらえるときに、口の下にある長いあごがとび出すそうです。
偶然にもその瞬間を見ることができました。
ヤゴの体の仕組みに驚き、興味津々の子どもたちでした。

水の中にいた“タニシ”は、いつの間にかこんなに大きくなっていました。
子どもたちは、触れていくうちに親しみが湧いて“タニシ”に名前をつけることを思いつきます。「みどり幼稚園 ジャンボタニシがいいよね～」と、いろんな候補を出し合いながら、楽しそうに考えていました。

